

1. 実況上の着目点

① 500hPa5820m 付近の強風軸に対応して、前線が沖縄の南から伊豆諸島の南を通して日本の東にのびており、15日9時に500hPa5760~5820mのトラフに対応する低気圧を前線上に解析。トラフ前面の低気圧や前線近傍では大気の状態が不安定となり、海上では発雷を多数検知。西日本太平洋側や伊豆諸島では1時間に数ミリ程度の雨の所がある。

② ボツ海の500hPa5580m付近には-21℃以下の寒気を伴うトラフがあって南東進。水蒸気

画像の暗域で、トラフの深まりが明瞭。このトラフに対応する低気圧を15日12時に朝鮮半島に解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①のトラフは16日にかけて浅まりながら日本の南から日本の東へ進み、対応する低気圧は、伊豆諸島を通過して16日朝には日本の東に進む。低気圧や前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、伊豆諸島では雷を伴って激しい雨の降る所がある。また、低気圧や前線とその東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて波が高くなる。落雷や突風、急な強い雨、強風や高波に注意。

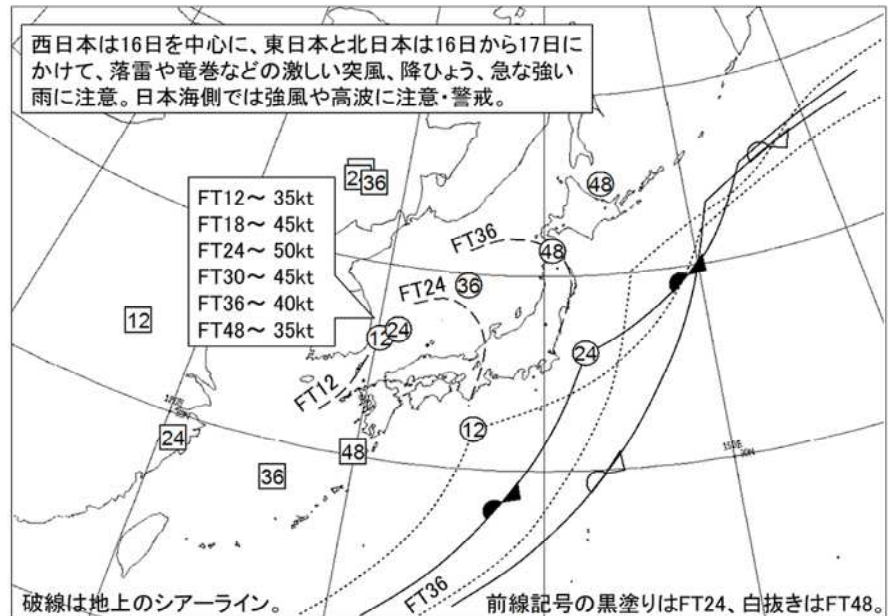
② 1項②のトラフが深まりながら切離し、17日にかけて寒冷渦が日本海を東北東進して北日本を通過。対応する低気圧は日本海西部で急速に発達し、16日朝には一時的に最大風速50kt[SW]となるが、その後は寒冷渦直下となってやや勢力を弱め、[GW]級で日本海から北日本へ進む。また、16日は寒冷渦前面の強風軸に対応する地上のシアラインが西日本から北日本を通過。寒冷渦に伴う500hPa-21℃以下の寒気と低気圧に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、低気圧やシアラインの近傍では大気の状態が非常に不安定となる所がある。西日本では16日、東日本と北日本は16日から17日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

③ 2項②の低気圧に伴い、西日本から北日本では強い風が吹いて波が高く、日本海側では非常に強い風が吹いて、しけとなる所がある。西日本では16日を中心に、東日本と北日本では16日~17日にかけて強風や高波に注意し、日本海側では注意・警戒。特に2項②のシアライン通過後の風の強まりや波の高まりに留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報と根拠】 ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：中国5、北陸・近畿・九州北部4、東北・関東・伊豆諸島・東海・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図